

## 2021年度 関西学院初等部 学校評価を終えて

関西学院では、2008年度に初等部が開校して以来、初等部・中学部・高等部が共同し、一貫性のとれた学校評価制度を構築し、互いに連携を取り、学校評価の実施と結果の公表に取り組んできました。

2010年度からは、幼稚園から大学院まで連なる関西学院の強みを生かし、接続する学校園の先生方に、専門的な視点からのご意見を伺うことで第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。そして、創立14年目を迎え、いよいよ本校の1期生が大学を卒業します。1期生が今まで学習、経験してきたことを、どのように社会で生かしてくれるか楽しみです。

2021年度の初等部の取組は、「キリスト教主義教育」「教育課程・学習指導・学校行事」「生徒指導」「研修（資質向上の取組）」の4項目を重点として、評価項目を設定しました。

評価の実施にあたっては、各項目について児童、保護者、教員にアンケートを実施し（回収率①児童 99.7%、②保護者 75.7%、③教員 100%）、それぞれの立場からの回答を得ることにより客観性を確保するとともに、回答者個々の意見も重視するよう努めました。

次に、アンケートの集計結果を分析するとともに、各重点項目についての初等部の取組状況を教職員が総括し、今年度の取組に分析、評価を加え、今後の改善の具体的方策を示し、初等部の自己点検・評価としました。

さらに、それらについて接続する学校園関係者の関西学院中学部長、教育学部教授の専門的視点に基づくご意見を「第三者評価／学校関係者評価」とし、合わせて初等部の学校評価としてまとめました。

本日、学院総合企画会議（短大・各学校内部質保証部会）において、初等部の学校評価が協議・承認されました。

初等部は関西学院がめざす世界市民の育成にむけた全人教育の土台を培う大切な役割を担っていることをしっかりと自覚し、子どもたちが生涯にわたって“Mastery for Service”の体現をめざしていけるよう、教員の力量を高め、保護者の理解と協力を得て、より質の高い教育活動を展開しなければなりません。

関西学院初等部として、本学校評価を真摯にとらえ、教職員一人一人が自らの課題を探り、組織としてその課題解決に向かって取組を進め、今後もさらなる改革を図ります。

2021年度初等部の学校評価を項目別に次頁以降に記し、ホームページ上で公表することにより、社会的信頼を高めるよう努めたいと考えています。

2022年3月18日  
関西学院初等部  
校長 大西 宏道

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

#### 【教育理念・使命】

キリスト教主義教育に基づく全人教育の「はじめの一步」を担う。

#### 【目標】

キリスト教主義教育を土台とした「建学の精神」を体得し、スクールモットーである“Mastery for Service”の実現をめざし、知性・情操・意志を備えた児童を育てる。

#### 【初等部聖句】

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

[意志]

[知性]

[情操]

### 2021年度の評価項目

- ・キリスト教主義教育  
初等部の教育の根幹をなすものであるため、評価項目として設定した。
- ・教育課程・学習指導・学校行事  
教育理念にふさわしいカリキュラムを編成するために、この項目を設定した。
- ・生徒指導  
児童が安心して生活できる学校づくりをめざしているため、この項目を設定した。
- ・研修（資質向上の取組）  
より質の高い授業の実現を図るため、毎年この項目としている。

### 2021年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義に基づく、たくましい生き方の育成】	自己評価	A
目標	建学の精神に基づき、キリスト教主義教育を初等部のあらゆる教育活動の中で展開し、児童がキリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神を体得できるようにする。そのためにすべての教員、また保護者がその精神について共通理解をもち児童に向き合えるようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p><b>（具体的な取組の状況）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もコロナ禍のため、様々な活動が制約を受けた。しかしながら、実施方法を工夫し、活動を止めず行うことができた。毎日の朝の礼拝、全学年週1時間の聖書科授業、特別礼拝、各宗教行事を土台にして、児童・保護者・教職員が建学の精神、スクールモットー“Mastery for Service”を共有し、様々な教育活動の中でキリスト教主義教育を展開することができた。</li> <li>・全学年保護者対象の「聖書講座」は、1学期はオンラインでの開催であったが、2学期、3学期は対面で実施することができた。またPTA活動との連携による「聖書と讃美歌に親しむ会」（各学年ごとに年1回開催）も2学期以降は対面で実施し、キリスト教主義教育の理念を保護者と共有する機会を設けた。</li> <li>・教職員に対しては「キリスト教研修会」を実施し、具体的な聖書の学びを通して、キリスト教の考え方や価値観を共有し、キリスト教主義教育の担い手として、どのように子どもたちと関わっていくべきかを考える機会をもっている。</li> </ul>		

	<p>(取組の効果に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート問4「こころの時間や聖書の時間は、あなたにとって、大切な時間だと思いますか。」に対する肯定的な回答は 93.9%であった。今年度はコロナ禍により全員がチャペルに入室して礼拝を守ることができなかったが、教室でも放送礼拝を大切に守ることができ、この結果からも礼拝や聖書を大切にしている心が育っていること、そして児童の中にキリスト教主義教育が深く浸透してきていることが分かる。</li> <li>・児童アンケート問5「“Mastery for Service” (マスタリー・フォア・サービス)を大切にすることを心がけて生活していますか。」に対する肯定的な回答は 88.1%であった。子どもたちが、“Mastery for Service”を体現する生活を心がけていることは、児童アンケート問18「学校で、命の大切さやなかまの大切さなどについて学んでいますか。」、問19「思いやりのある友だちが多いですか。」、問20「友だちが困っていたら、助けていますか。」、問21「友だちの意見や考えをよく聞いていますか。」の肯定的な回答の割合が高いことから読み取ることができる。また一方で約10%の子どもが否定的な回答をしており、この子どもたちが日々の生活の中で“Mastery for Service”を大切にすることを心掛けて歩めるために必要な手立ては何かを考えていかなければならない。</li> <li>・保護者アンケート問5「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。」に対しては肯定的な回答の割合が 96.6%と昨年度よりも高い数値を示している。昨年度中止せざるを得なかった「聖書講座」をオンラインと対面で行うことができ、また学年ごとに開催している「聖書と讃美歌に親しむ会」をすべての学年で実施できたことの結果であると考えられる。</li> <li>・保護者アンケート問6「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が 92.2%と昨年度よりも高い数値を示しており、家庭においても子どもの姿から保護者がキリスト教主義教育が浸透していることを感じてくださっていることが分かる。</li> <li>・保護者アンケート問22「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」、保護者アンケート問23「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」、保護者アンケート問24「学校は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が、それぞれ 100%、99.5%、90.7%と昨年度よりも高い数値を示している。この数値から保護者もまたスクールモットー“Mastery for Service”の精神とキリスト教主義教育に十分理解をし、肯定的に受け止めてくださっていることが分かる。</li> <li>・教員アンケート問1「私は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的な回答は 100%と全員が肯定的な回答をしており、続く教員アンケート問2「学校は、キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。」との質問に対しては肯定的な回答が 96.8%となっている。当然のことではあるが、教職員がキリスト教主義教育の理念を共有し、自らがキリスト教主義教育の担い手であるという自覚をもって初等部の教育にあたっていることが分かる。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的にアンケート結果は肯定的な回答の割合が高く良好であったが、「強く思う」の割合がより高くなるような努力・工夫を続けていく。</li> <li>・関西学院の教育の根幹であるキリスト教主義教育、スクールモットー“Mastery</li> </ul>

	<p>for Service” の精神を、すべての子どもたち、保護者、教職員と共有、浸透させていくために、何よりも日々の礼拝や祈りを大切にすることを徹底し、誠実かつ丁寧に守り続けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書科授業のみならず、様々な教育活動の中にキリスト教の価値観や聖書の教えを土台とした取組を展開していく。そのためにも、キリスト教主義教育の担い手である教職員の研修を充実する。</li> <li>・子どもたちが主体的に宗教行事や活動に取り組めるプログラムを、「例年通り」ではなく新たに計画し実施していく。</li> <li>・ホームページ、学校だより、学年だより、学級だよりなどの媒体を通して、在校生の保護者のみならず、入学を希望する保護者にもキリスト教主義教育の意味をより深く共有していく。</li> </ul>
--	--

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導・学校行事 【真理を探究する確かな学力の育成】	自己評価	B
目標	「キリスト教主義に基づく全人教育による人間形成」を念頭に「各教科の特性や児童の興味・関心に応じた教育課程の工夫」また、「学力の的確な把握の上の学習指導」「豊かな情操を育む芸術文化活動」を目指す。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度とは違い、4月から分散登校せず、通常登校になり、再度年間カリキュラム等を見直した。</li> <li>・昨年度に引き続き、子どもたちの安心・安全を確保するために自家用車での送迎を認めることにした。</li> <li>・新学習指導要領の実施に伴い、通知書の評価観点の見直しをした。</li> <li>・どのような資質・能力を育てていくのか、初等部内で共有し、次年度の評価方法について検討した。</li> <li>・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨年度の時程を継続して行った。具体的には、1単位時間40分とし、クリーンタイム（清掃時間）を一旦停止したり、休み時間を分散で行ったりすることで、子どもにとって、より安全な学校環境とするように努めた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大により、臨時休業時や2週間以上の欠席が続く児童に対してオンライン授業を実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みながら、学校行事の延期、中止を決定した。</li> <li>・学年別特別活動として、普段体験・経験できないような学年での取組を実施した。</li> <li>・子どもたち全員がiPadを持つ環境整備に注力した。</li> <li>・新学習指導要領の実施に伴い、評価観点が変わることから算数の単元テストならびに期末テストの内容について全体で議論し修正を図った。</li> <li>・学習の相対的な到達度を把握するための実力テストを実施した。また、学力不振児童については算数の補習を行い、学習習慣の定着と学力の向上を図った。</li> <li>・補習対象児童の基準を見直し、幅広い対応ができるように工夫した。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート問3「学校は楽しいですか。」では、肯定的評価が前年度93.1%から89.5%と3.6ポイント下回っている。また、児童アンケート問9「授業では、自分から進んで、友だちと話し合ったり、考えたり、まとめたりしていますか。」においても、前年度84.5%から82.3%と肯定的評価のポイントを下</li> </ul>		

げている。長引くコロナ禍の中、制限された学校活動や行事縮小によるもの  
と考える。そのような中でも保護者アンケート問4「初等部の教育には満足して  
いる。」では、88.5%の肯定的評価を得て、前年度よりも微増ではあるが0.2ポ  
イント上回っている。保護者においては初等部の授業について信頼を得られて  
いることがうかがえる。初等部としては前年踏襲していくのではなく、新たな  
学校教育を展開していく必要がある。

- ・保護者アンケート問10「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行って  
いる。」85.9%、保護者アンケート問11「学校は、基礎的知識や技能を活用する  
場面を取り入れた授業を行っている。」85.9%は、決して高い評価ではないが、  
学力に不安のある児童をもつ保護者にとっては、身につけるべき基礎的な学習  
内容の定着や、補習授業での学習内容の定着を図る取組が少しずつ理解を得ら  
れてきていると感じている。さらに研修部と協力しながら、引き続き授業改善  
し続けていくことが保護者の信頼を得ることにもつながる。
- ・保護者アンケート問8「学校は、子どもの学力を保護者にきちんと伝えている。」  
では、肯定的評価78.5%と前年度からポイントが微減している。これについて  
は、今年度も授業参観の中止など保護者の来校制限があったため、子どもの様  
子を伝える機会が圧倒的に少なくなってしまったことは否めない。しかし、個  
人懇談会はオンライン・対面とハイブリッドで行えたことで、保護者にとって  
は少しでも学校の様子を明確に伝えられたものと感じている。この質問事項に  
ついては僅かながら毎年ポイントを下げているので、その点についてさらに斬  
新な取組が必要である。
- ・教員アンケート問1「私は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を  
共有している。」については、100%の肯定的評価となっている。今までに経験  
したことのない長きにわたるコロナ禍においてキリスト教主義教育を実践す  
るにあたって、我々のスクール・モットーである“Mastery for Service”の原  
点に立ち返り、「他者と共に歩み、本当のやさしさと思いやりをもって自らを社  
会と人のために用いることのできる人を育成していく」といった点を、我々教  
員がもっとも意識して取り組んだからだと考える。
- ・英語については昨年度に引き続き、内容・実践をよりブラッシュアップした形  
で行っている。特に、「毎日英語に触れる」ということを前提に、日本人教員、  
ネイティブ教員あわせて8人態勢で取り組んでいる。そのため、児童アンケ  
ート問11「英語の時間の勉強はわかりやすいですか。」は78.2%の肯定的評価で、  
前年度76.8%からは僅かにポイントを上げた。しかし、昨年度に引き続き例年  
6年生で実施しているCCT（カナダ・コミュニケーション・ツアー）や、4、  
5年生で実施している留学生との交流などが中止になり、児童が得たコミュニ  
ケーションスキルを表現する場がなくなった。来年度はそれに代わる場を考  
えることが急務であると考えている。
- ・芸術教育について、児童アンケート問14「音楽や図工は好きですか。」では、  
94.5%の肯定的評価になっており前年度92.8%からは若干ポイントを上げて  
いる。しかし、保護者アンケート問15「学校は、音楽、美術（図工）、を中心  
とした芸術教育を通して、子どもの豊かな感性を育てている。」の肯定的評価  
は88.5%で、これについては前年度90.1%から若干ポイントを下げた。これ  
らの評価については感染症拡大の影響を受けて、例年実施している音楽祭に保  
護者が参加できなかったことも一因と考える。しかし、今年度も学年音楽発表  
会を実施したり、作品展についても感染症対策を行いながら実施したりして児  
童の表現の場を作ってきたことは評価したい。

今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における学校行事の見直しを持った運営。(集団宿泊的行事・学芸的行事・体育的行事・遠足的行事など)</li> <li>・中学部との連携の強化。(算数・英語など)</li> <li>・昨年度に引き続き、新学習指導要領の改訂に伴い、子どもたちの資質・能力をどのように育てていくか。また子どもたちをどのように見取っていくのかを議論。(各教科単元末テスト、期末テストの在り方、評価の在り方)</li> <li>・ICT教育のさらなる充実と研修。(オンライン授業の内容、授業方法など)</li> </ul>
-------	---

評価項目 【テーマ】	生活指導 【初等部に関わる全ての人々が楽しく幸せに過ごせる学校生活】	自己評価	B
目標	児童が社会の一員として責任ある態度を持ち、学校生活のきまりを守ることができるようにする。そのために、学年の発達段階に応じた自己判断を促すようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度同様、教員による立哨を下校時に行った。信号待ちの児童に、飛沫感染予防という観点で、これまでの「静かにする」という指導から「話さない」という具体的でわかりやすい指導を徹底して行うようにした。</li> <li>・本年度は、代表委員と生活安全委員会の児童に、信号待ちでのルール呼びかけを行ってもらい、1年生と6年生のペア下校も行うことで、高学年児童の意識を高め、児童が自分たちできまりを守っていくという意識をもてるようにした。</li> <li>・登校時、苦情の多い地点に絞り、学事委員会の教員が立哨を行った。</li> <li>・校長室会や教師会、朝の職員朝礼において、日々の生活指導の案件や児童の様子を教員に伝え、全員で生活指導に当たるという意識をもってもらえるようにした。</li> <li>・生活安全委員会の児童と連携して、休憩時間のグラウンドの使い方、校舎内での過ごし方、挨拶の仕方など、児童の自治で校内生活が豊かになるような工夫を行った。</li> <li>・避難訓練は火災(11月)、地震(1月)の2回、様々な災害に備えて行った。地震避難訓練は、その日のうちのいつ訓練が始まるか分からない状況で実施し、不測の事態にどう対処すればよいか考えられる訓練とした。</li> </ul> <p>(取組の効果に対する評価)</p> <p>〈児童アンケートの結果から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導の観点である「学校のきまりを守ること」について、児童アンケート問16「学校のきまりを守って生活していますか。」に対する肯定的な回答は89.5%(前年度86.7%)であった。この項目に関しては前年度を2.8ポイント上回る回答を示しており、児童の意識の高まりが見られる。</li> <li>・生活指導の観点である「元気よく挨拶をすること」について、児童アンケート問17「だれにでも元気よくあいさつしていますか。」に対する肯定的な回答は88.7%(前年度85.3%)であった。この項目に関しては前年度を3.4ポイント上回っている。しかし、一昨年は92.0%であった。コロナ禍以前からすれば、まだ低い数値であることは否めない。コロナ禍において、マスクをしている中での挨拶のしづらさに加え、必要以上の声を出さない指導をしていることが、以前に比べて挨拶をしっかりとできなくなった要因と考える。</li> </ul>		

	<p>&lt;保護者アンケートの結果から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート問 17「学校は、集団生活に関するルールやマナーについて、適切な指導をしている。」に対する肯定的な回答は 89.7%（前年度 88.0%）であった。前年度に比べて 1.7 ポイント上回っており、児童アンケートの同様の項目の回答から考えて、児童への指導が保護者にも伝わっていることがうかがえる。</li> <li>・保護者アンケート問 18「学校は、しっかりと挨拶ができるように指導している。」に対する回答は 81.9%（前年度 82.4%）であった。一昨年の 83.2%から考えても、「あいさつ」に関して、児童アンケートのわずかの上昇の結果も、保護者からすればコロナ禍以前のイメージが強く、もの足りないと感じているものと思われる。</li> </ul> <p>&lt;教員アンケートの結果から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート問 13「私は、挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。」、教員アンケート問 14「私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。」、教員アンケート問 16「私は、一人ひとりの子どもが安心して学校生活を送れるように、配慮、指導している。」の 3つの質問に対して、いずれも 100%の肯定的な回答が見られた。これは、コロナ禍での命の危機感を教員が同じ意識で子どもたちに向き合っていた結果であると考えられる。しかしながら、児童や保護者における同様のアンケートに対する回答では、10 ポイントから 20 ポイントの差があり、教員が十分に行っているという意識が児童や保護者に伝わっていない現状がある。</li> <li>・教員アンケート問 15「私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。」は、否定的な回答が 3.2%あった。これは、指導を行ったが、十分にできなかったということと思われる。よって、十分に指導できるように、学年団や管理職に協力を得ながら、引き続き指導に当たる必要があると思われる。</li> <li>・蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言の発出などにより、登下校に関する細かい指導を一昨年同様に本年度当初にも行うことができなかった。特に、児童と共に乗車しながら車内における細かい指導を行うことができなかったこともあり、低学年を中心に、登下校でのルールマナーの徹底を図ることが難しかった。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校のきまりを守ること」に関しては、例年と同様に教員の意識を統一させるために、校長室会や教師会で繰り返し児童の実態を伝えつつ、事前に全員で指導ができるようなアナウンスをしていく。本年度に始めた、教員の指導に加えて、児童同士の呼びかけによる指導を併用しながら、さらに児童の意識を高められるように指導を行っていく。</li> <li>・「あいさつ」については、マスクの着用がいつまで続くのかわからない状況を踏まえ、マスクをしていても挨拶をすることで相手に気持ちを伝えられるようにしていくことの重要性を伝えるような指導を、児童同士の呼びかけも取り入れながら継続的に行っていく。</li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>研修（資質向上の取り組み） 【“Mastery for Service” の体現 ～関わり合いの質を高める～】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<p>「他者と対話し共感する能力」を持ち「よりよい世界を創造」することが我々のミッションであり、“Mastery for Service” を体現する鍵となる。教員の対話と</p>		

	<p>共創の場づくりを行い、教員の絶えざる変容によって、スクールモットーを体現する初等部の子どもたちの育成をめざす。</p>
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;公開授業&gt; 各学年の代表による「大授業」を実施。事前検討会は学年で行い、事後研修会は全教員が参加。その他全教員が一人一授業公開で「小授業」を行い、それぞれ実践記録を提出することとした。</li> <li>・ &lt;ICT教育研修&gt; 感染症拡大による臨時休業を想定し、各教員がオンラインで同期型授業が行えるよう、Zoomおよび授業支援クラウドアプリ「ロイロノート・スクール」の研修を行った。4月に体験型で全員に実施し、その後、各学年団に分かれて操作方法の確認をした。</li> <li>・ &lt;キリスト教研修&gt; 本校宗教主事によるキリスト教主義教育の講話を聞き、要点について整理した後、各学年によるグループ討議を行った。</li> <li>・ &lt;危機管理研修&gt; 本校養護教諭による救急措置や感染症対策に関する講話を聞き、日常でできる具体的対応方法を確認した。</li> <li>・ &lt;読書会&gt; 任意参加型で、幅広い読書体験を共有する場を提供した。不定期開催。</li> <li>・ 外部講師による「LGBTQ+研修」をZoomで開催。「LGBTQ+」に関する認識を深めた。</li> <li>・ 外部講師による「子ども理解の方法」をZoomで開催。「個」をみるということに対しての理解を深めた。</li> <li>・ &lt;教科部会&gt; 教務委員会と連携を図りながら教科部会を開催した。各教科についての理解（資質・能力、評価等）を深めた。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童アンケート問 15「タブレットを使って学習に役立てることが出来ますか。」における肯定評価が 93.7%と高評価になっている。昨年度に導入されて一人一台端末環境が整い、タブレット端末上で考えを共有したり、学習のまとめを進めたり、児童の授業の中での効果的な活用が多く見られた。教員アンケート問 12「私は、ICT機器を有効に活用している。」の肯定的評価が 90.3%となっているように、教員によるICT機器の活用の様子が、児童の活動の様子につながっていると考えられる。「あまりそう思わない」が 9.7%である原因は、各教科による効果的な活用方法の相違と考えられる。</li> <li>・ 児童アンケート問 23「困ったときに、友だちや先生に相談できますか。」の肯定的評価が 62.8%（前年度 65.7%）と微減し低い値だと捉えられる。「強くそう思う」が 30.3%（前年度 26.6%）と増えていることは良い兆しだが、逆に「まったくそう思わない」が 10.7%（前年度 8.6%）と増加している。相談できる児童とできない児童との差が大きくなっている。より一層安心感のある教室環境を整えると共に、個別に配慮する必要がある児童を見とるための研修を進める必要がある。</li> <li>・ 児童アンケート問 19「思いやりのある友だちが多いですか。」の「強くそう思う」が、53.7%（前年度 47.8%）と上昇している。反面、児童アンケート問 22「相手の気持ちを考えて行動することができていますか。」の「強くそう思う」が、28.7%（前年度 33.1%）と減少している。優しくされていると感じてはいるが、いざ自分自身が行動するとなるとそのよりよい接し方や具体的な方法がわからない児童が存在すると考えられる。学級経営や特別活動に特化した研修を進める必要があると考えられる。</li> <li>・ 保護者アンケート問 10「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」、問 12「学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫をしている。」</li> </ul>



	<p>では、それぞれ 85.9%、88.8%と高評価となっている。また、保護者アンケート問 11「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」における肯定評価が 85.9%(前年度 83.8%)と上昇している。これは、ICTの使用による知識の活用場面を設けたり、ICTを学習活動の効果的な場面で積極的に使用したりするなど、教員の授業の意識の変化や授業方法の工夫が影響していると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート問 17「私は、研修部の教員研修計画に基づき、授業研究や公開授業を実施している。」、問 18「私は、授業研究や公開授業を通して、自身の授業力の向上に努めている。」の肯定評価がそれぞれ 90.3%(前年度 80.7%)、93.5%(前年度 77.4%)と上昇している。これは、本年度から再開された授業公開、学年で協働的に研修を進めた点や、各自でタブレット端末を使った授業を模索し続ける教員の姿勢の表れだと考えられる。</li> <li>・教員アンケート問 22「学校のコロナ禍についての対応は総じて適切であった。」の「強くそう思う」が、64.5%(前年度 50.0%)と上昇している。各教員が協力しながらZ o o mでのオンライン学習を行えたことや、授業支援クラウドアプリ「ロイロノート・スクール」等で細やかに児童への連絡、評価を行うことができた成果だと考えられる。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末が有効に活用される授業づくり研修を進める。</li> <li>・新学習指導要領における各教科のねらいや教科の本質的な解釈の具体化に、教務委員会と共同して取り組む。</li> <li>・他者からのフィードバックを得ることを通して自身の授業や実践を見なおす機会を設けるために、年間一人一授業公開を継続する。</li> <li>・客観的に分析的に連続的に児童理解を進めるために、児童の記録を取り続け、学年間で共有できる場を設定する。</li> <li>・オンライン等で外部講師を招聘し、学習者理解や学級経営、特別活動に関する研修を進める。</li> </ul>

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

## 総合評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>○こころの時間、聖書の時間、聖書講座などを通じて、多くの児童と保護者がキリスト教の精神や“Mastery for Service”の重要性を理解している。</li> <li>○多くの児童と保護者が初等部の授業はわかりやすく楽しいと評価している。日々の授業では一人一台所持しているタブレットを有効活用する場面が増えてきている。新型コロナウイルス感染症により長期欠席を余儀なくされた児童にはオンライン授業を行った。今後は、育てたい資質・能力を初等部内で共有し評価に生かし保護者に的確に伝えていくことが課題である。</li> <li>○生徒指導に関しては、児童が自らの判断でルールを守るような指導を基本としてきた。長引くコロナ禍の中で、電車内での過ごし方など登下校の細かな指導を継続していく。</li> <li>○キリスト教主義教育に関する研修、危機管理に関する研修、LGBTQ+に関する研修など、様々な研修を実施した。タブレットの活用に関する研修も積極的に行い、オンライン授業の充実を図った。</li> <li>○前年度同様、児童アンケート問 3「学校は楽しいですか。」、保護者アンケート問 4「初等部の教育には満足している。」で高い肯定的評価を得た。新型コロナウイルス感染症の拡大の中で、健康安全に注意を払いながら進めたオンライン授業、学級づくり、授業づくりの工夫や努力が評価さ</li> </ul>
--

れたものと考えられる。

## 2021年度の評価をふまえて2022年度に予定している評価項目、テーマ等

- キリスト教主義教育
- 教育課程・学習指導・学校行事
- 生徒指導
- 研修（資質向上の取組）

## 第三者評価／学校関係者評価

コロナ禍において様々な制約がある中で、アンケートの結果については、全般的に良い状態を維持していました。項目によっては肯定的評価を下げたものもありましたが、各項目の評価結果の水準が高いことに、教職員による日々の研鑽を感じることができます。授業や休憩時間では、感染症予防に配慮しつつも、どの児童の表情にも明るさや積極性を見てとることができました。キリスト教主義教育、教育課程・学習指導・学校行事、生徒指導、研修等の取組が充実しているのだと思われれます。

児童を対象としたアンケートでは、問14「音楽や図工は好きですか。」において肯定的回答が(92.8%→94.5%)、問11「英語」の時間の勉強はわかりやすいですか。」は(76.8%→78.2%)という値になっており、高く評価できます。保護者のアンケートにおいても、問13「学校は、英語教育を通して、英語によるコミュニケーション能力を育てるとともに、基本スキルを定着させている。」の肯定的回答が(72.4%→73.7%)と上昇しているため、初等部の英語教育が高く評価されていることがわかります。

一方、児童を対象としたアンケートの結果の中には、問3「学校は楽しいですか。」に対する肯定的評価が(93.1%→89.5%)へと減少していること、他にも、問6「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」の「強くそう思う」の回答が(56.9%→52.6%)、問7「授業は楽しいですか。」の肯定的評価の回答が(92.8%→90.9%)、問8「授業はわかりやすいですか。」の「強くそう思う」の回答が(48.9%→44.4%)とあるように、肯定的な評価を下げた項目がありました。オンライン授業の増加による理由なのか、あるいは他の要因が考えられるのか、検証して対応する必要があります。

また、児童を対象としたアンケートの中で気になるのは、問23「困ったときに、友だちや先生に相談できますか。」に対する回答結果についてです。「強くそう思う」の回答が(26.6%→30.3%)と上昇した一方で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計の回答もまた(34.4%→37.1%)と上昇しています。この結果から、児童が「相談できる側」と「相談できない側」の二極化が進行していることを指摘できます。以前よりも相談できるようになった児童には継続して励ましつつ、未だに相談ができない、あるいは相談の仕方がわからない児童についても教職員で声をかけ、共有していくことが必要です。コロナ禍においては「家族」というプライベート空間が生活の中心となり過ぎる傾向があり、児童にとって相談できる場や相手が失われがちです。児童が気軽に相談できる環境づくり（組織としての学校づくり）と、児童の相談できる力や他者からの相談を受けとめる力を育てる学級経営や授業づくりのあり方を検討した上で、実践し、その効果を検証する必要があります。

アンケート結果から児童・保護者の思いを丁寧に掬いとり、それを教員による評価と重ねあわせながら一年間の教育活動を真摯に振り返ったことが伝わる自己評価でした。マイナスの評価にしっかりと向きあい、そこから改善のヒントを得ようとする姿勢に敬意を表します。

キリスト教主義教育では、可能となった対面形式の保護者集会を含め、学校を挙げてその浸透に尽力したことが評価結果に表れました。スクールモットーと自分の学校生活との関連に否定的な回答をした児童の割合が取りあげられていますが、児童なりに自らを省察した結果と受け取ることもできます。初等部が大切にしている心の教育が、これまで通り、日々丁寧に積み重なっていきます

よう願っています。

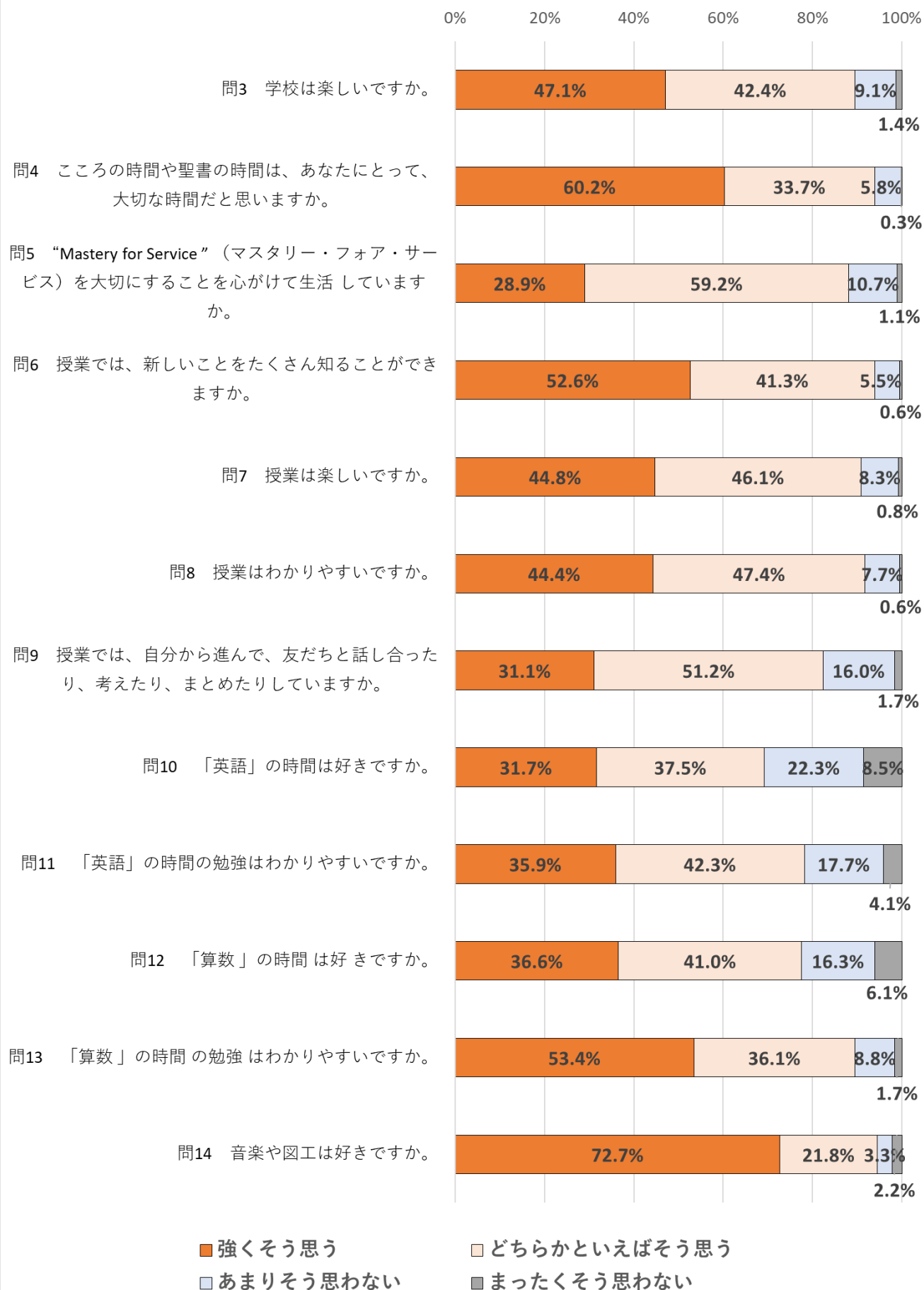
学習面では、実績あるタブレット端末の活用がコロナ禍にあって有効に働いた様が見てとれます。特に長期欠席者に対するオンライン授業の実施は、当該児童に大きな安心をもたらしたことでしょう。また、昨年度の自己評価において課題と認識されていた、新学習指導要領実施に伴う評価方法の見直しに予定通り着手された点が大いに評価されます。なお、教科レベルにおける中学部との連携強化が今後の方策に挙げられていますが、一貫教育の観点からもその実施が強く求められていると考えます。その具体として以前に行われていた教科連絡会のリスタートが望まれるところです。

挨拶を含めた社会マナーの向上については感染対策との両立に苦慮している学校の様子がかえませんが、この点に関する児童の意識が着実に上向いていることを示すアンケート結果を踏まえ、コロナ禍を過ごす今の時が、児童の自律心を一層育む機会となって未来に繋がることを期待しています。

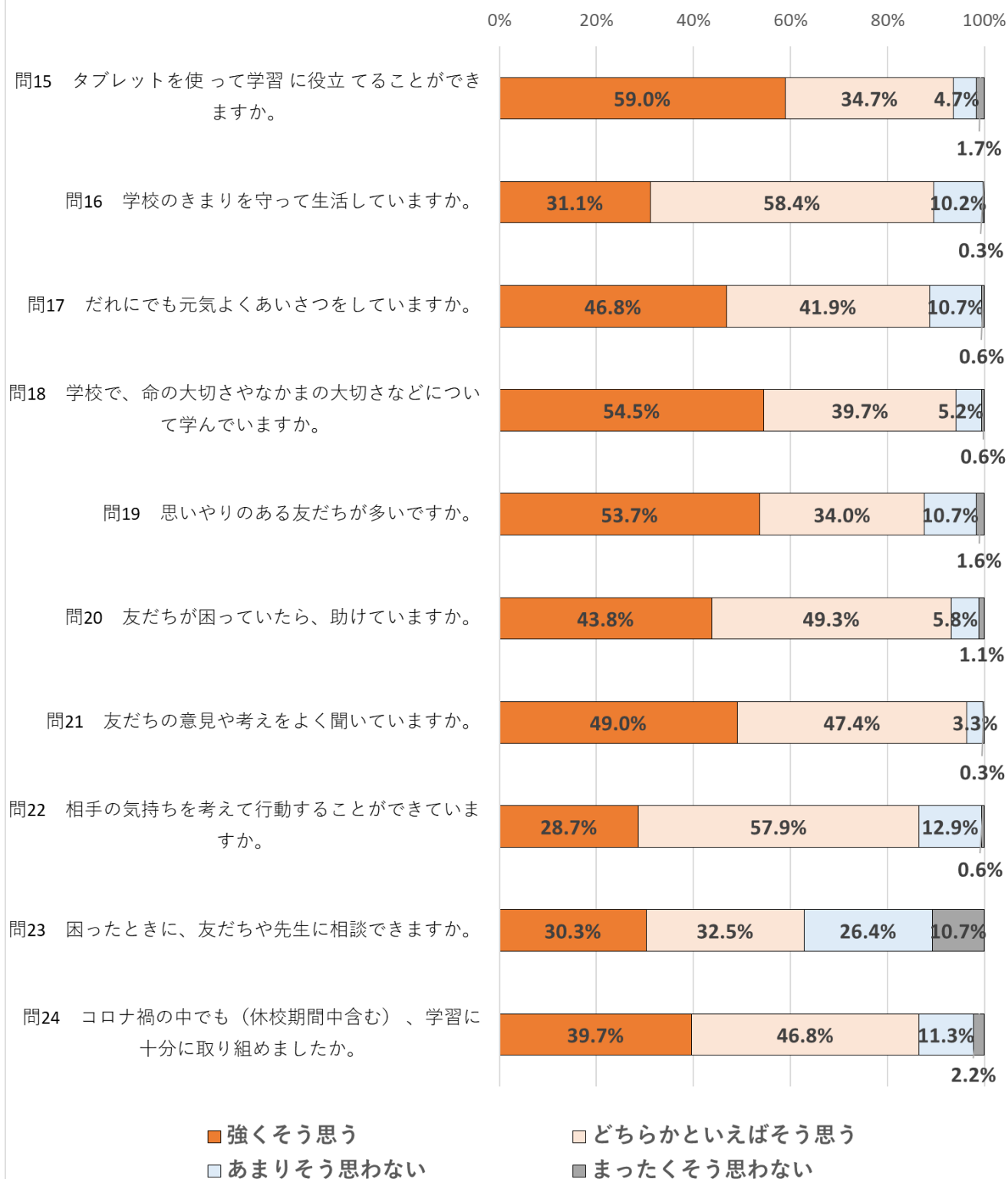
今年度も評価者が訪問した際に出会った児童たちの持つ明るい雰囲気印象的でした。児童・保護者・教職員が一体となって、初等部の全人教育がこれからもますます推し進められるよう願っています。

2021 年度学校評価

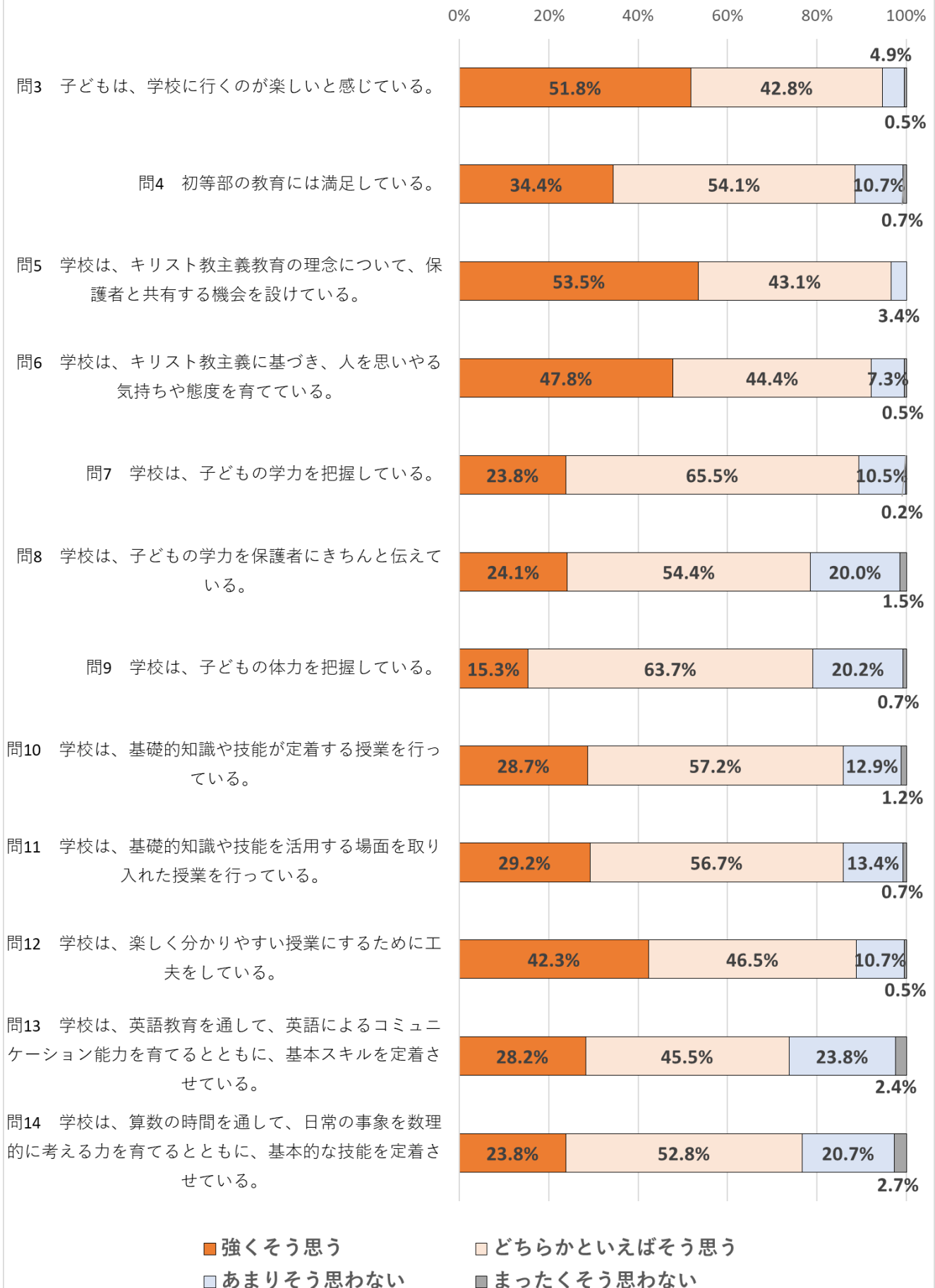
2021年度 学校評価アンケート集計結果  
初等部・児童（回収率 99.7% 363人/364人中）



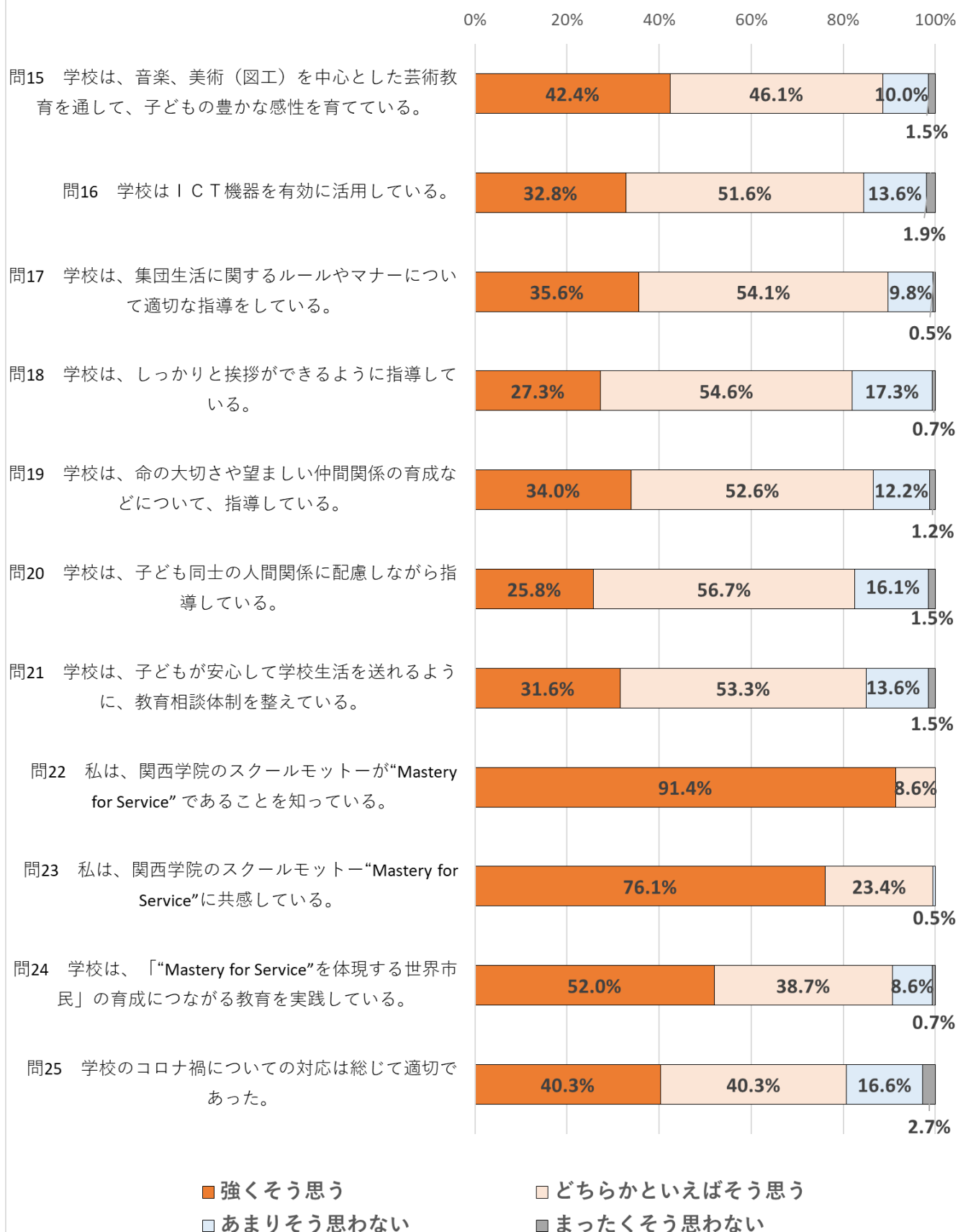
**2021年度 学校評価アンケート集計結果**  
**初等部・児童 (回収率 99.7% 363人/364人中)**



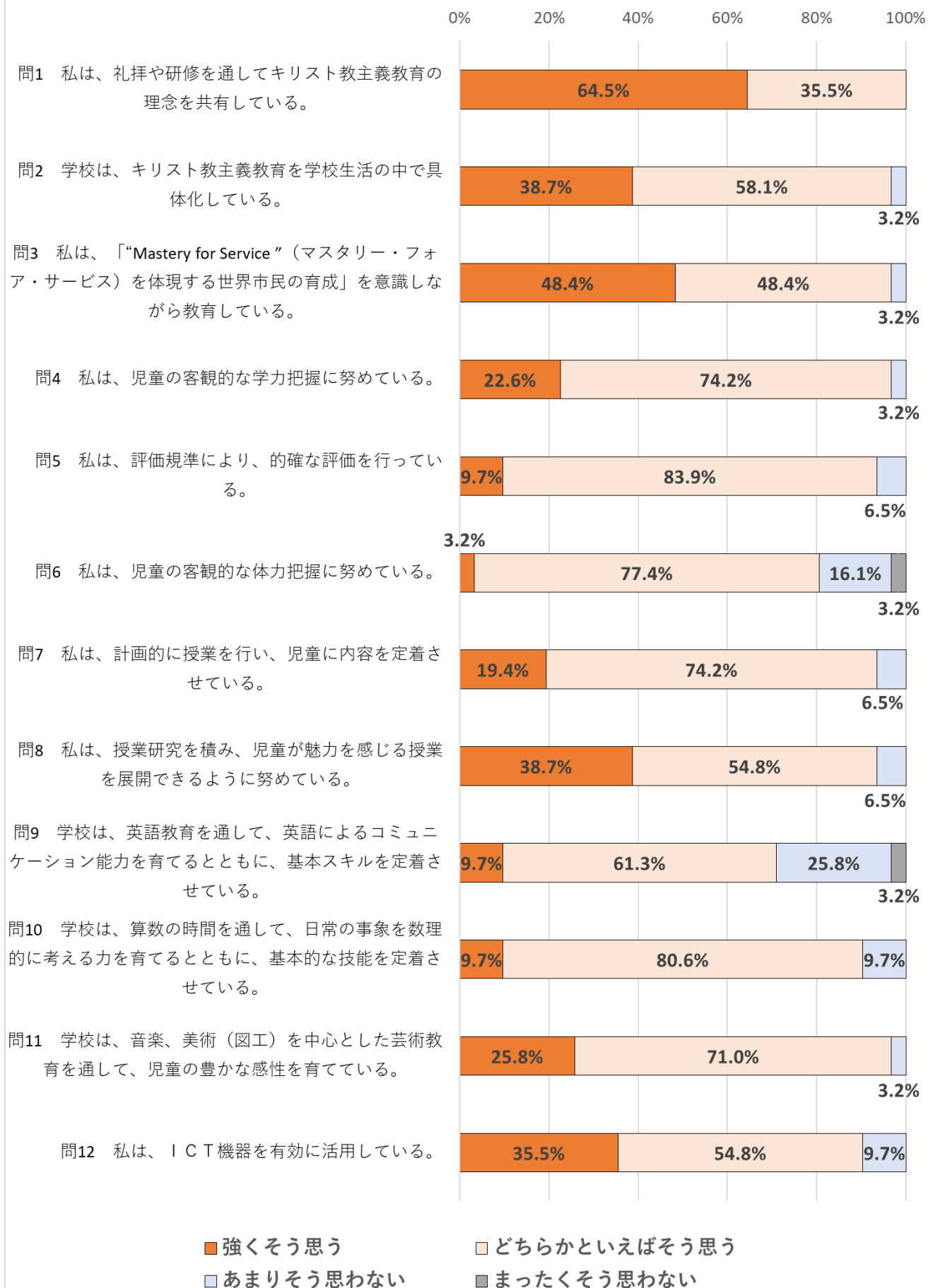
2021年度 学校評価アンケート集計結果  
初等部・保護者 (回収率 75.7% 411人/543人中)



**2021年度 学校評価アンケート集計結果**  
**初等部・保護者 (回収率 75.7% 411人/543人中)**



2021年度 学校評価アンケート集計結果  
初等部・教員 (回収率 100% 31人/31人中)





**2021年度 学校評価アンケート集計結果**  
**初等部・教員 (回収率 100% 31人/31人中)**

